

## 計算技術検定試験に関わる不適切な指導について

### 1 概要事案発生の日時

平成 26 年 11 月 19 日 (水)

### 2 事案の概要

県立八幡工業高校で、男性講師 [ ] が、平成 26 年 11 月 20 日 (木) に生徒 (1 年生 239 名、2 年生 3 名) が受検する予定であった、平成 26 年度第 71 回計算技術検定試験 (公益社団法人全国工業高等学校長協会主催) の 4 級の問題を、実施前日の 19 日 (水) に、自らが授業を担当する 1 年生 24 名に事前に解かせていた。

### 3 事案の原因

(1) 当該講師は、11 月 19 日 (水) までの授業で 3 回にわたり、検定試験に向け、過去に出題された問題 (過去問) に取り組ませていた。11 月 19 日 (水) の授業でも過去問に取り組ませようとしたが、既に大半の問題をやり終えていたため、良くないという認識はあったが、知識ではなく、電卓を使う技能をみる試験であるため、当日の試験問題であることがわからないようにしておけば問題はないであろうという甘い判断から、過去問 2 題とともに、検定試験問題 3 題を加えて問題を解かせた。

なお、生徒はこれまでの練習で合格点 (7 割以上の正答率) が取れるようになっていたため、事前に当日の問題をさせることによって、合格率を上げようという意識はなかった。

(2) 試験問題については、事前にクラスごとに仕分けし、検定試験当日まで、試験監督をする者がそれぞれ手元で保管しており、学校の検定試験問題の管理体制に不備があった。

### 4 事後の対応

(1) 11 月 20 日 (木)、検定試験終了後、受検した生徒 2 名から、前日の授業で同じ問題を解いたとの情報を得た教諭が、翌 21 日 (金) 9 時 30 分頃に管理職に報告した。報告を受けた管理職が当該講師を呼んで事実確認を行った結果、検定試験に関わる不適切な指導があったことが判明した。

なお、今回の事案を全国工業高等学校長協会へ報告したところ、前日問題を解いた 24 名の生徒については、不合格として取り扱うとの連絡があった。

(2) 11 月 22 日 (土) ~23 日 (日)、校長と教頭が、当該生徒 24 名と当日試験を欠席した 1 名の自宅を訪問して、説明と謝罪を行った。

(3) 11 月 25 日 (火) 朝、全校生徒に説明と謝罪を行った。

(4) 11 月 26 日 (水) 19 時から保護者へ説明と謝罪を行った。

### 5 県教育委員会の対応

他校についても、検定試験が適切に行われるよう、校長会 (12 月 4 日) においてあらためて指導した。